

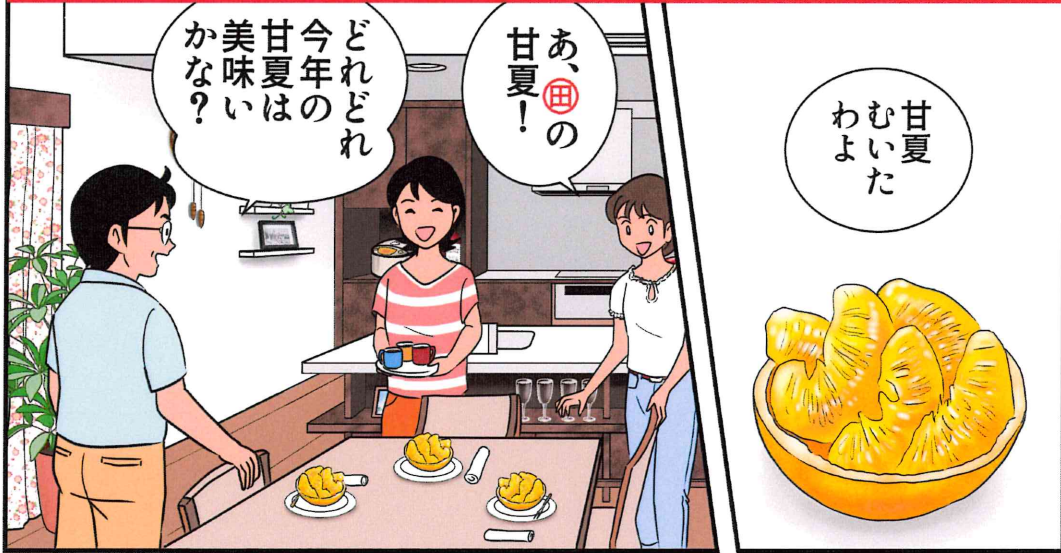
田の浦甘夏物語

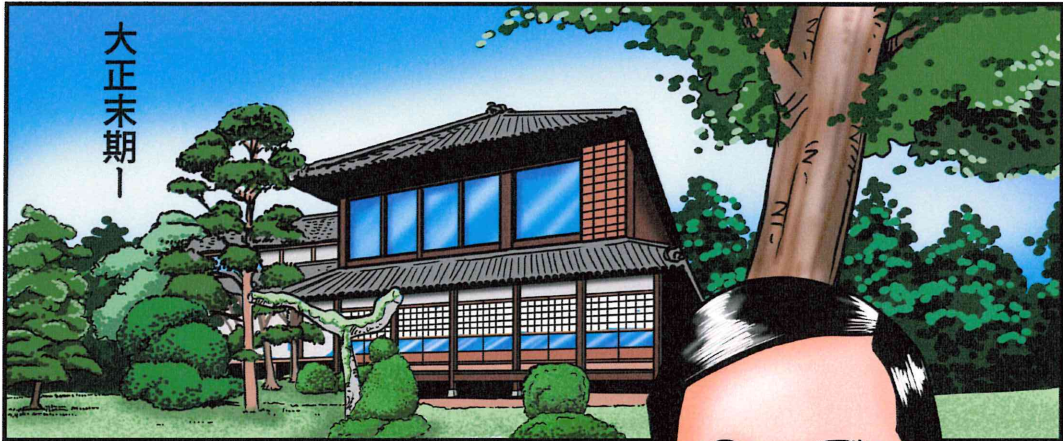


田の浦柑橘組合

Illustrated by 永岩 武洋

第一章 黎明





大正末期

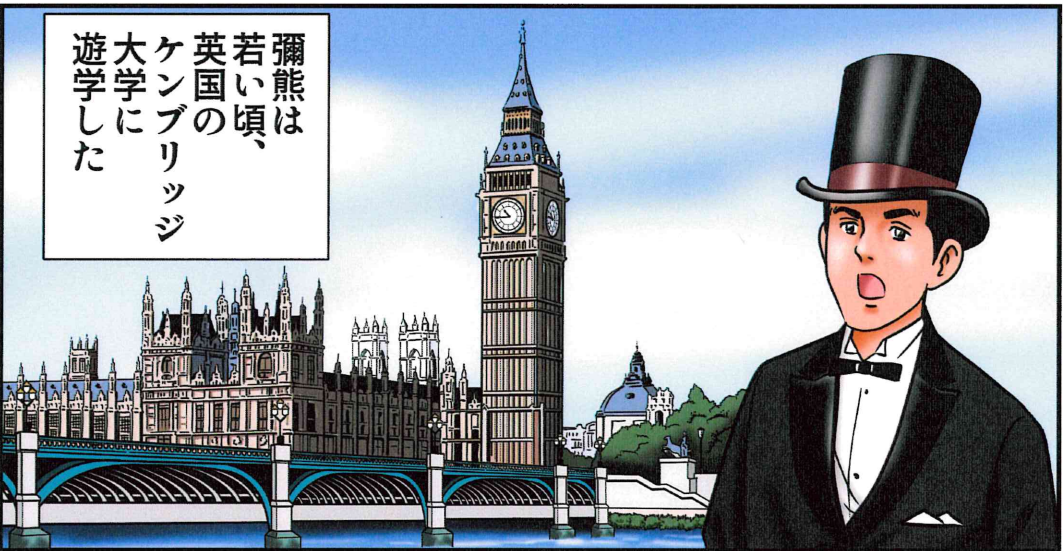


藤崎彌熊

古くから
大地主であつた
藤崎家の赤松館
六代目当主。

初代 田浦町長。

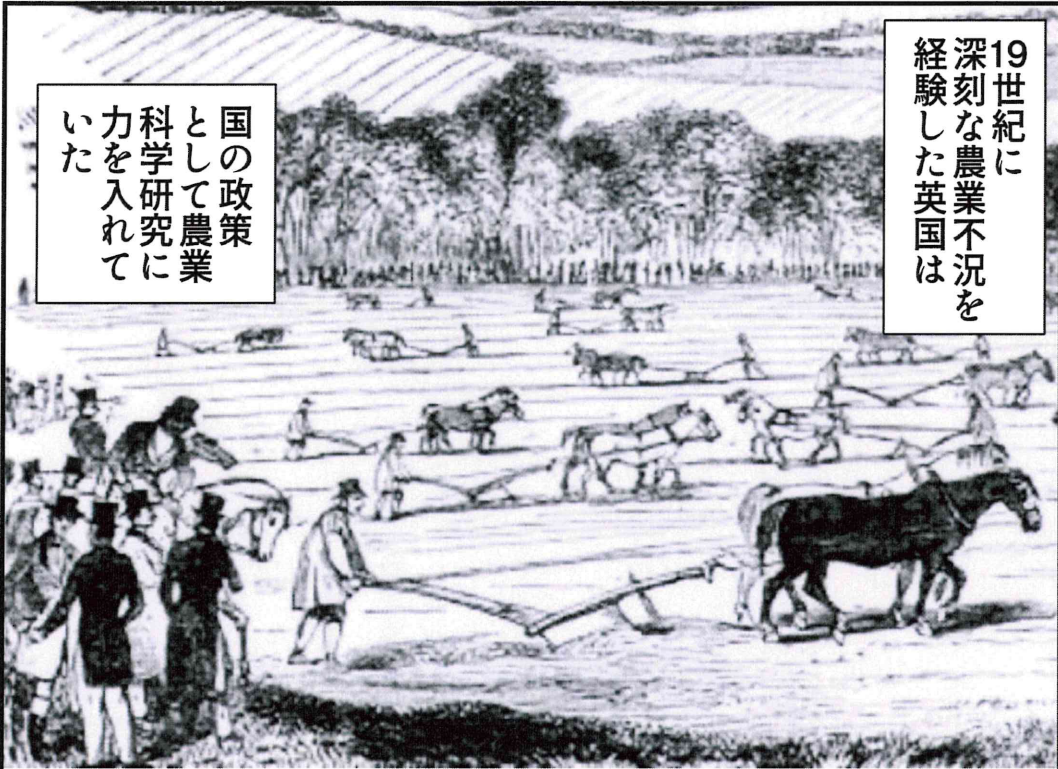
田浦の殖産興業を
我が使命と感じ、
農民の意識改革に
尽力した。



彌熊は若い頃、
英国のケンブリッジ
大学に遊学した

19世紀に
深刻な農業不況を
経験した英国は

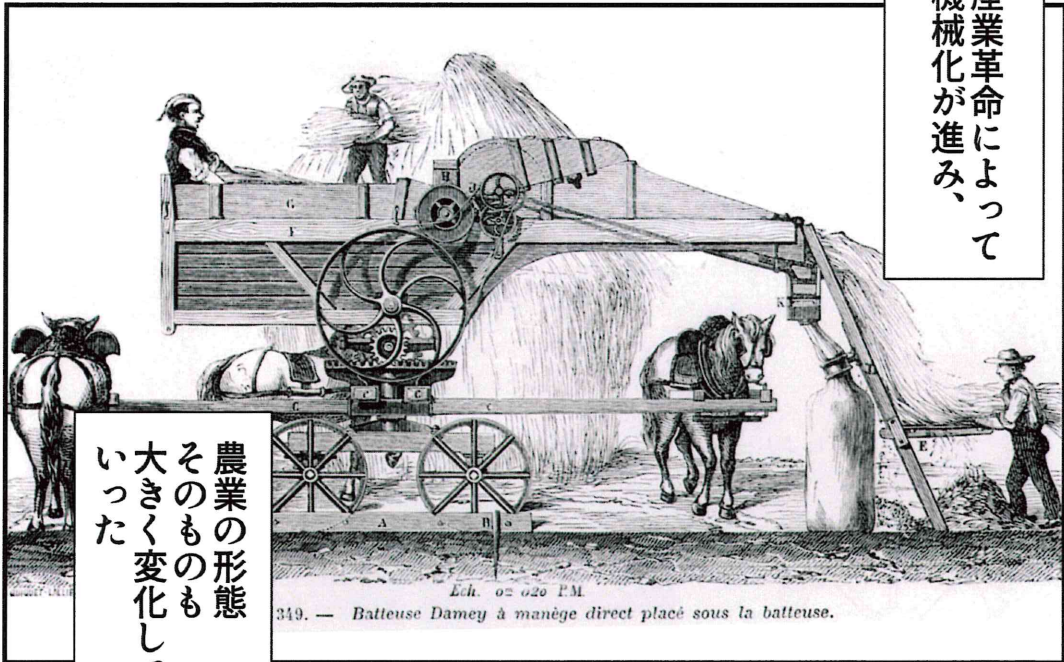
国の政策
として農業
科学研究に
力を入れて
いた

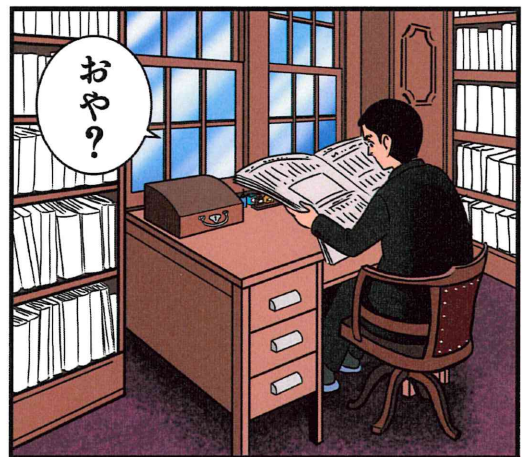
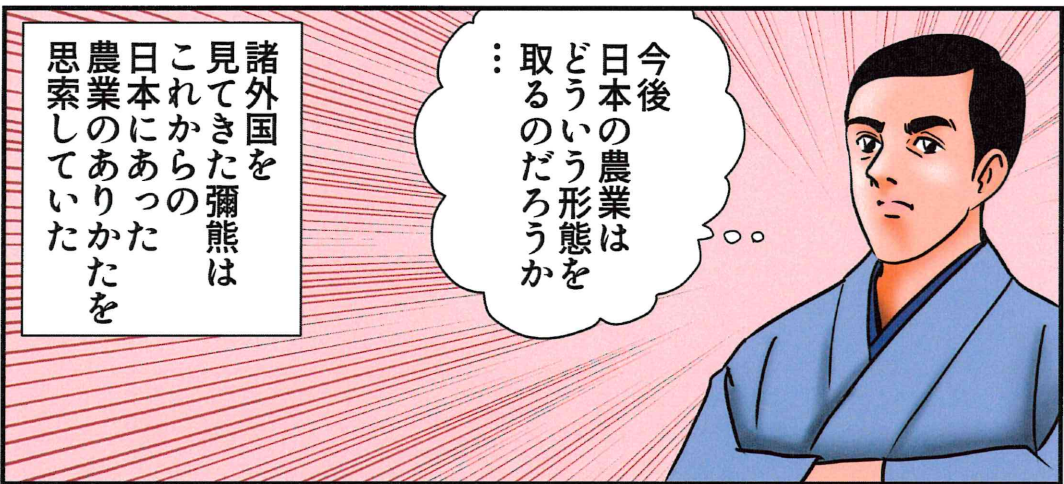
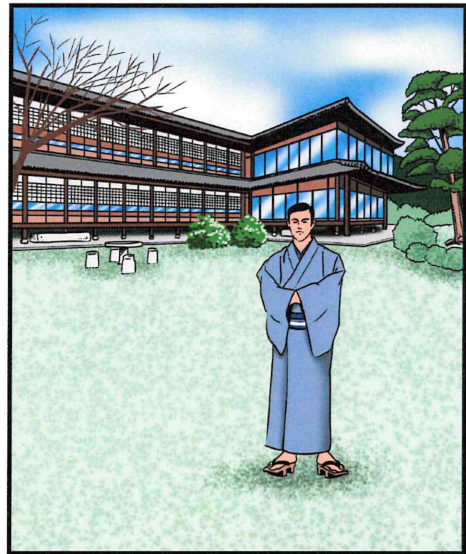


資本家と労働者の様子が描かれている英国19世紀初頭の農場風景

産業革命によって
機械化が進み、

農業の形態
そのものも
大きく変化して
いった







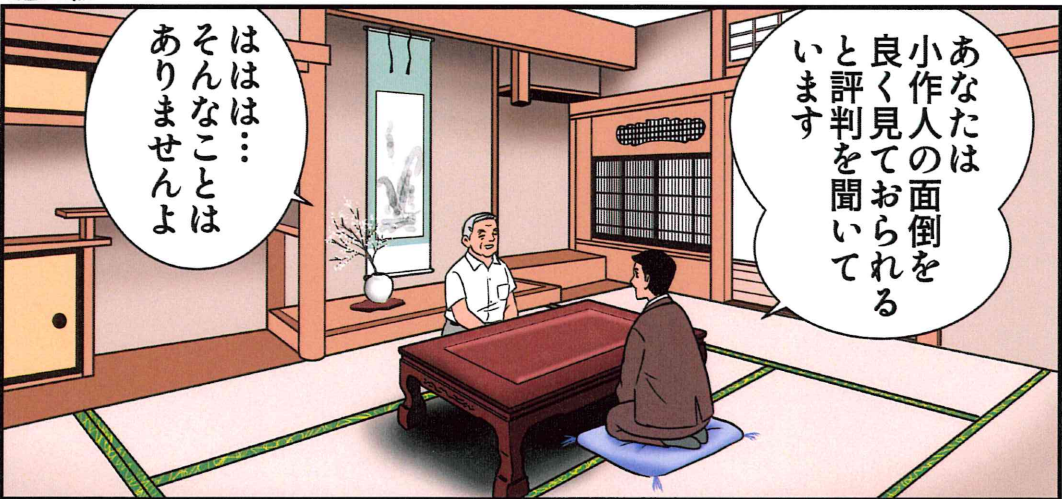
しばらくして
彌熊は
上益城郡白畑村の
大地主を訪ねた



私と同じ
考えを持つ
地主が
現れたか...

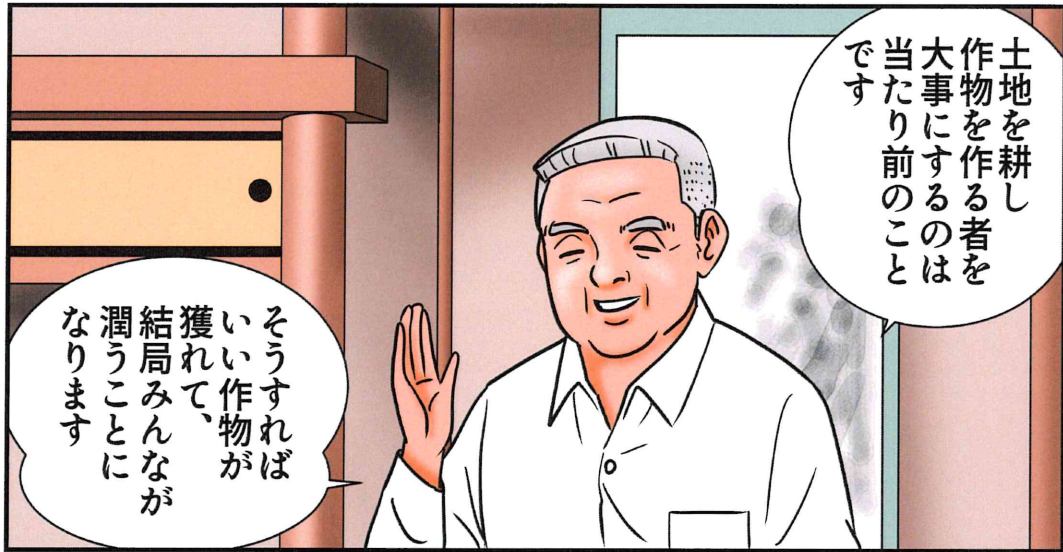


ごめん
ください



あなたは
小作人の面倒を
良く見ておられる
と評判を聞いて
います

ははは...
そんなことは
ありませんよ



土地を耕し
作物を作る者を
大事にするのは
当たり前のこと
です

そうすれば
いい作物が
獲れて、
結局みんなが
潤うことにな
ります



おっしゃる
通りです！

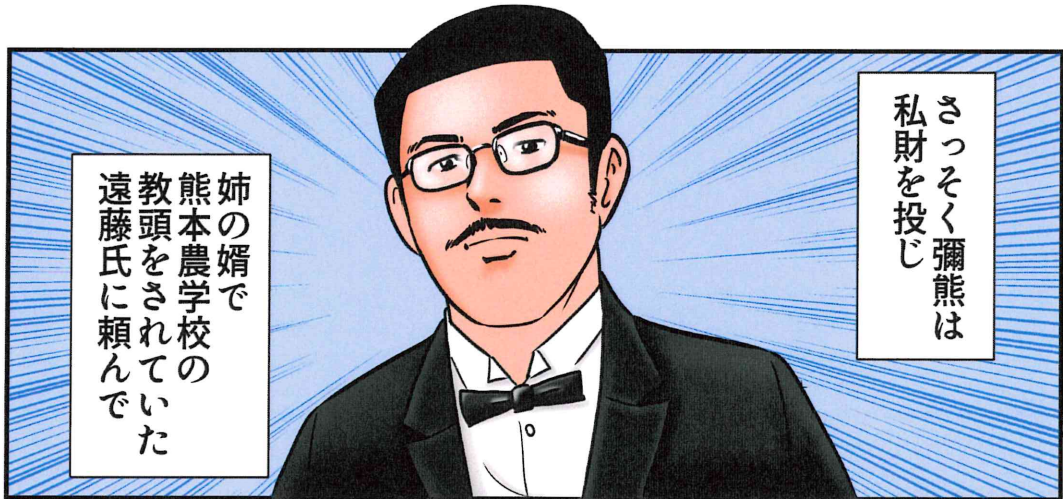
お話を伺い、
自分が何を
すべきかが
見えて来ま
した



よし！
農閑期に
小作人たちに
最先端の農業を
学ばせてやろう

これからは
小作人も
独立不羈の
精神を培って

希望を持って
仕事ができる
ようにして
やらなければ
ならない！



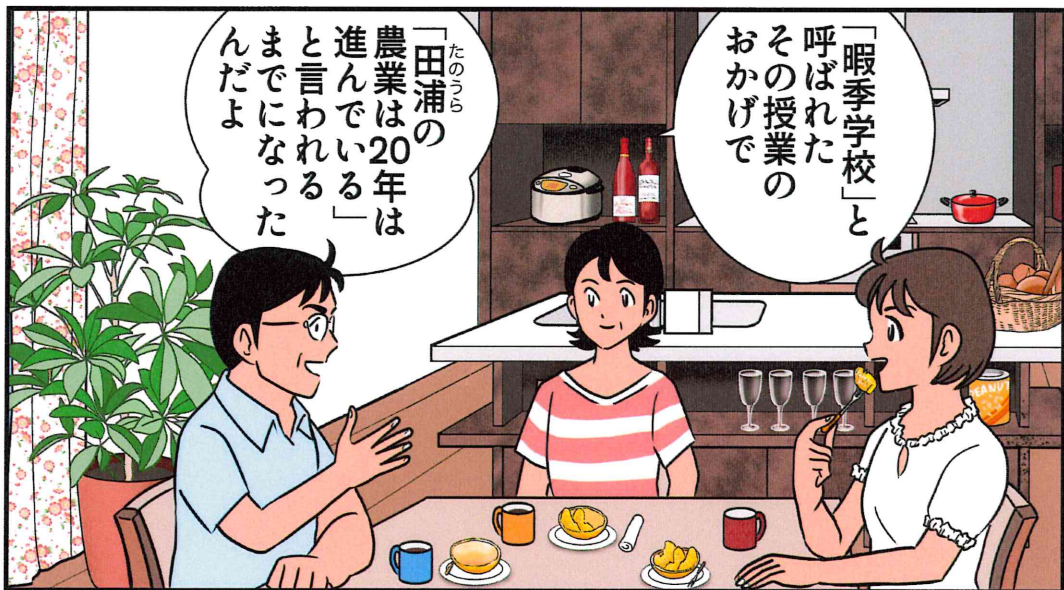
さつそく彌熊は私財を投じ

姉の婿で熊本農学校の教頭をされていた遠藤氏に頼んで



農業に関するさまざまな分野の教師を招いて

農閑期の農民たちを相手に最新の作物の作り方から、効率の良い農作業の仕方などを教えた



「暇季学校」と呼ばれたその授業のおかげで

「たのうら田浦の農業は20年は進んでいると言われる」までになったんだよ